

令和5年 火災・救急概況（速報）

～令和5年1月1日から令和5年12月31日まで～

① 火災件数が大幅に増加し、出火原因は2年連続「たばこ」が第1位

- ・ 全火災件数は733件で、前年と比べて94件増加し、出火原因では「たばこ」が2年連続第1位となりました。
- ・ 全火災における電気火災（※）の件数は211件で、過去最多となりました。
- ・ 火災による死者（放火自殺を除く）は14人で、全てが住宅で発生し、7割が高齢者の方となりました。

② 救急出場件数は25万件を超え、搬送人員とともに過去最多を記録

- ・ 救急出場件数は254,636件で、前年と比べて10,550件（4.3%）増加し、過去最多を記録しました。
- ・ 搬送人員は204,969人で、前年と比べて12,796人（6.7%）増加し、過去最多を記録しました。搬送人員の割合を年代別にみると高齢者が56.2%、傷病程度別にみると中等症以上が51.9%となりました。

※電気火災とは、電気をエネルギーとする機器や用品、設備などが発火源となった火災です。

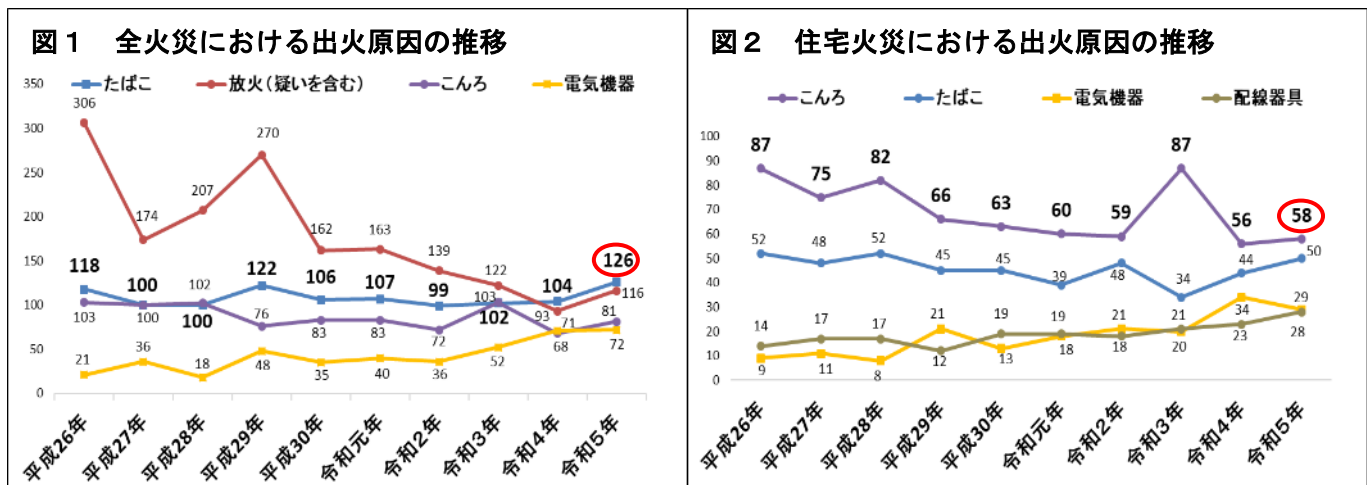
1 火災の概況（詳細は、別添資料1参照）

(1) 火災件数

- ・ 全火災件数は733件で、前年と比べて94件増加し、火災種別ごとにみると、建物火災は439件（前年比23件増）、車両火災は88件（前年比21件増）、船舶火災は2件（前年比2件増）、その他の火災は204件（前年比48件増）となりました。
- ・ 建物火災のうち、住宅火災件数は285件で、前年と比べて16件増加しました。

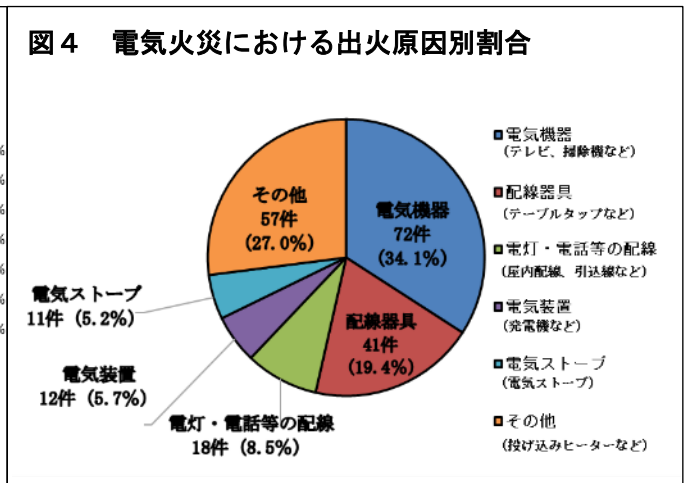
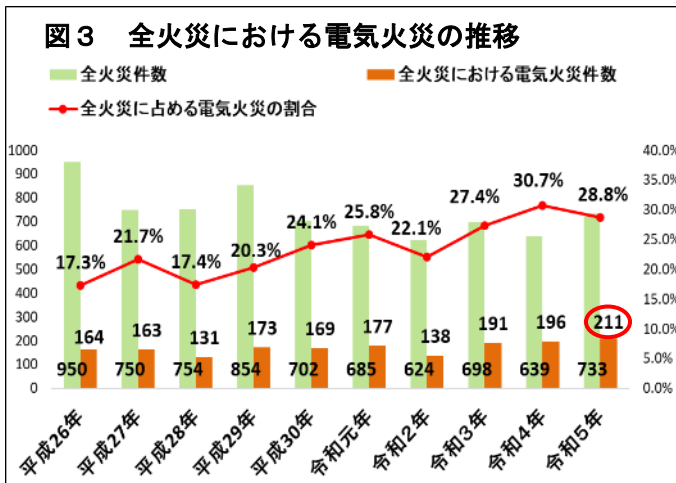
(2) 主な出火原因【図1】【図2】

- ・ 全火災の出火原因第1位は、「たばこ」126件（前年比22件増）で、次いで「放火（疑いを含む）」116件（前年比23件増）、「こんろ」81件（前年比13件増）の順となりました。
- ・ 住宅火災の出火原因第1位は、「こんろ」58件（前年比2件増）で、次いで「たばこ」50件（前年比6件増）、「電気機器」29件（前年比5件減）の順となりました。



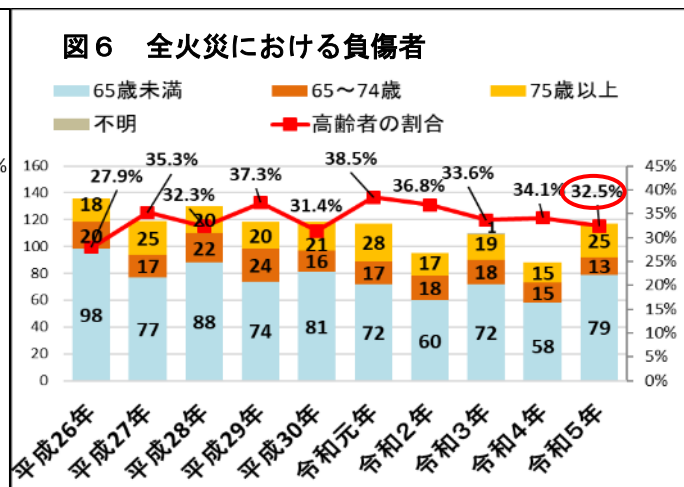
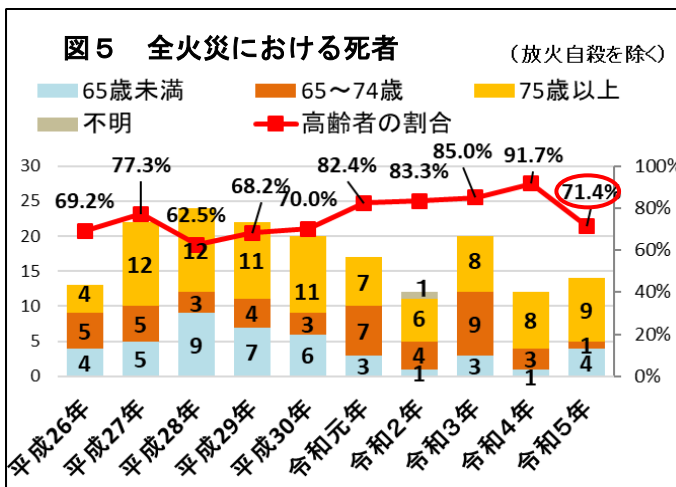
(3) 電気火災【図3】【図4】

- 「電気火災」は、全火災で211件（28.8%）発生し過去最多の件数となりました。
- 出火原因別割合では、テレビや掃除機などを発火源とする電気機器が72件（34.1%）で、テーブルタップなどを発火源とする配線器具が41件（19.4%）となりました。
- リチウムイオン電池に起因した火災は、全火災で37件、住宅火災で13件発生しており、近年、増加傾向が顕著となっています。



(4) 火災による死者及び負傷者【図5】【図6】

- 放火自殺を除く全火災の死者は14人（前年比2人増）で、全員が住宅火災でお亡くなりになりました。そのうち、10人（71.4%）が65歳以上の高齢者の方でした。
- 火災による負傷者は117人（前年比29人増）で、83人（70.9%）が住宅火災で負傷しました。負傷者のうち38人（32.5%）が65歳以上の高齢者の方でした。



「よこはま防災 e-パーク」で防災について学びましょう。

いつでも、どこでも、オンラインで身近に防災を学ぶことができる「よこはま防災 e-パーク」では、住宅火災の出火原因で多い、「こんろ」、「たばこ」、「電気」等の防火対策のほか、救急、地震、風水害など、いざという時に備える幅広い知識を学ぶことができます。

また、子どもたちが楽しみながら防災を学べるよう、一般財団法人ポケモン・ウィズ・ユー財団の制作した「ポケモンぼうさいきょうしつクイズ」と連携しています。

火災などの災害から大切な命と財産を守るため、「よこはま防災 e-パーク」で学んで、いざという時に備えましょう。



<よこはま防災 e-パーク>



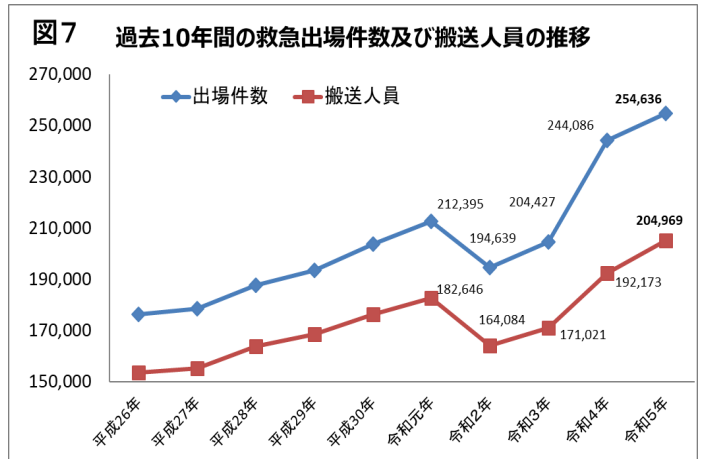
横浜市消防局マスコットキャラクター ハマくん

次頁あり

2 救急の概況（詳細は、別添資料2参照）

(1) 救急出場件数及び搬送人員【図7】

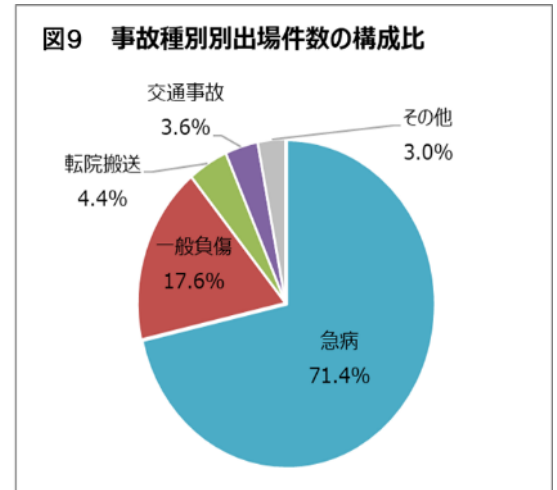
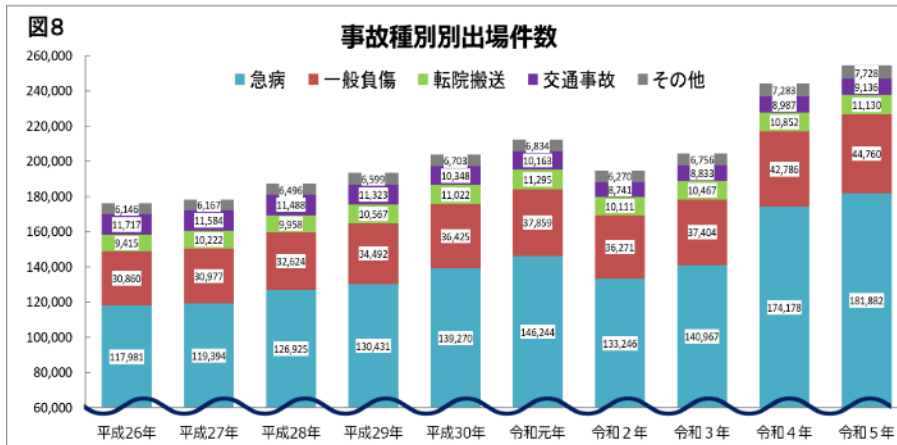
- 救急出場件数は254,636件（前年比10,550件増）で、過去最多を記録しました。
- 搬送人員は204,969人（同12,796人増）で、過去最多を記録しました。
- 1日あたりの平均救急出場件数は698件で、前年の669件と比べて29件増加しました。
- 2分4秒に1回救急車が出場していることとなります（前年は2分9秒に1回）。
- 市民の15人に1人が救急車を利用されたこととなります。



(2) 事故種別別出場件数【図8】【図9】

- 事故種別ごとの救急出場件数は、「急病」181,882件（前年比7,704件増）、「一般負傷※」44,760件（同1,974件増）、「転院搬送」11,130件（同278件増）、「交通事故」9,136件（同149件増）の順となり、全救急出場件数のうち、急病が71.4%、一般負傷が17.6%となりました。
- 事故種別別出場件数の割合は、前年と同程度となりました。

※一般負傷とは、「労働災害や運動競技等に分類されない不慮の事故」をいい、住宅内での転倒・転落、やけど、熱中症等が該当します。

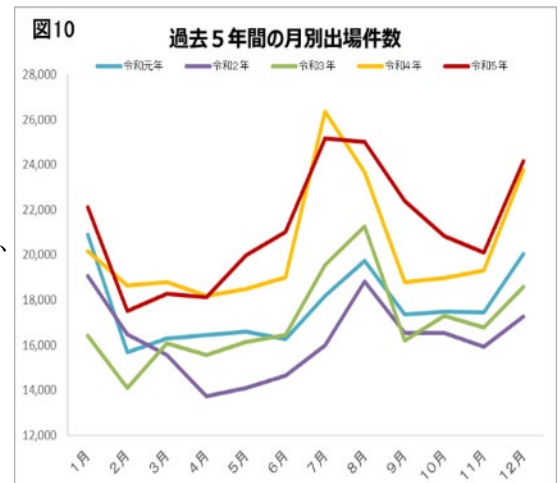


(3) 月別出場件数【図10】

- 1か月あたりの平均救急出場件数は21,220件で、前年の20,341件と比べて879件増加しました。
- 令和4年7月は新型コロナウイルス感染症患者の急増等により過去最多を記録しましたが、令和5年は、統計上最も暑い夏となり、7月、8月は特に多くの救急要請があったほか、インフルエンザ等の感染症の流行の影響により、年間を通じて多くの救急要請がありました。

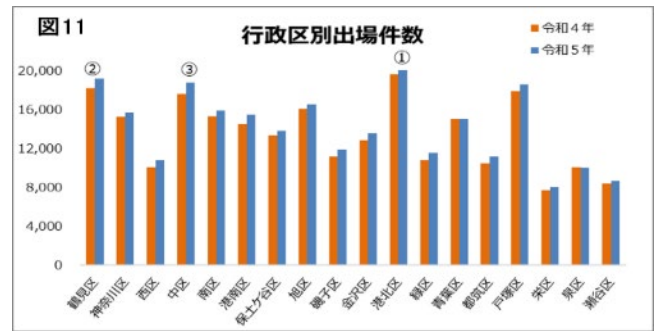
	1月	2月	3月	4月	5月	6月
令和5年	22,108	17,519	18,272	18,122	19,969	21,009
令和4年	20,167	18,627	18,794	18,173	18,475	18,991
増減比	9.6%	△ 5.9%	△ 2.8%	△ 0.3%	8.1%	10.6%

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和5年	25,154	25,020	22,389	20,824	20,100	24,150
令和4年	26,350	23,658	18,786	18,977	19,317	23,771
増減比	△ 4.5%	5.8%	19.2%	9.7%	4.1%	1.6%



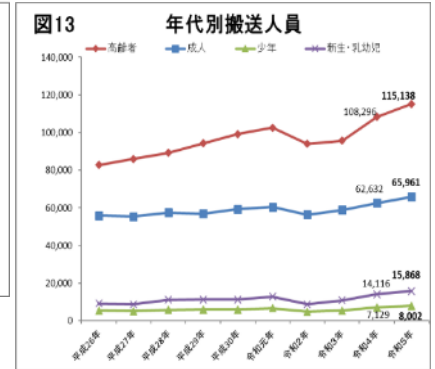
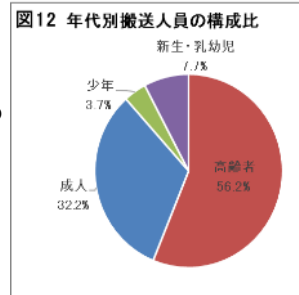
(4) 行政区別出場件数【図 11】

- 行政区別の救急出場件数は、港北区（20,266 件）、鶴見区（19,146 件）、中区（18,761 件）の順となりました。
- 前年と比べて、中区で 1,170 件（6.7%）、港南区で 981 件（6.8%）、鶴見区で 953 件（5.2%）それぞれ増加しました。



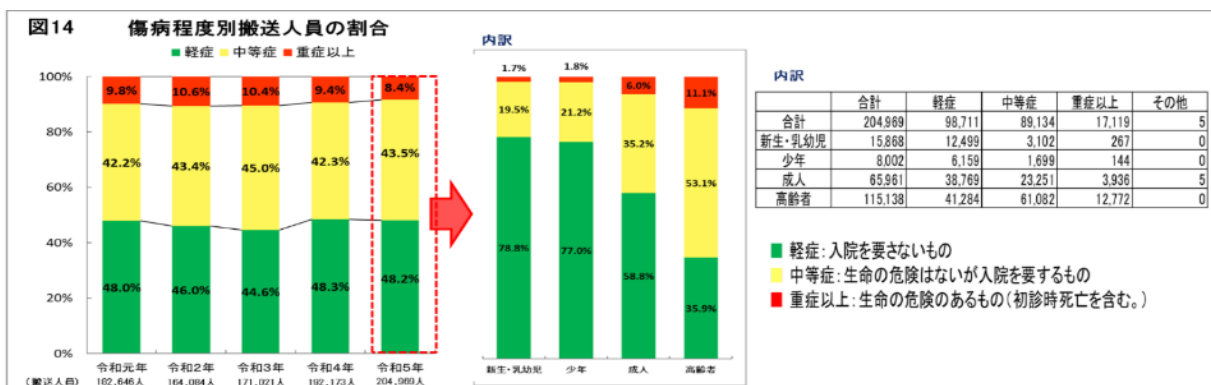
(5) 年代別搬送人員【図 12】【図 13】

- 前年と比べて全ての年代で増加しました。
- 年代別の搬送人員は、65 歳以上の「高齢者」が 115,138 人（56.2%）、18 歳以上 65 歳未満の「成人」が 65,961 人（32.2%）、7 歳未満の「新生・乳幼児」が 15,868 人（7.7%）、7 歳以上 18 歳未満の「少年」が 8,002 人（3.9%）の順となりました。



(6) 傷病程度別搬送人員（医療機関初診時）【図 14】

傷病程度別の搬送人員は、軽症が 98,711 人（前年比 5,838 人増）、中等症が 89,134 人（同 7,892 人増）、重症以上が 17,119 人（同 938 人減）の順となり、「新生・乳幼児」及び「少年」では 7 割以上が軽症であるのに対して、「高齢者」では 6 割以上が入院を必要とする中等症及び重症以上となりました。

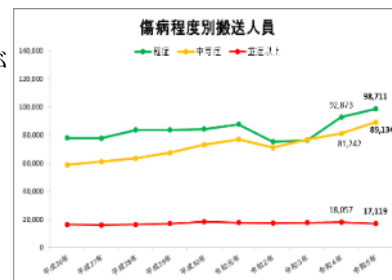


※グラフ等の割合は小数第 2 位を四捨五入しているため、表中の合計が 100.0%にならない場合があります。

市内で救急要請が多発する日には、救急車の到着まで時間がかかる場合もあります。

救急車は、けがや病気などで、緊急に医療機関での受診が必要な方を搬送するためのものです。

救急車には限りがあります。適正利用にご理解とご協力をお願いします。



Point 急な病気やけがで迷ったら・・・

■ 横浜市救急受診ガイド

パソコンやスマートフォンから緊急性や受診の必要性を確認できます。

■ 横浜市救急相談センター（#7119 又は 045-232-7119）

「救急受診できる病院・診療所」、「救急車を呼ぶべきか」などを電話相談できます。



<横浜市救急受診ガイド>



横浜市消防局マスコットキャラクター ハムくん

お問合せ先

（火災に関すること） 消防局予防課長 宇多 範泰 Tel 045-334-6601

（救急に関すること） 消防局救急課長 石黒 靖雄 Tel 045-334-6771

火災概況〈速報〉

1 火災種別・損害状況

単位：件

年別		令和5年	令和4年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成25年～令和4年) (C)	(A) - (C)
火災種別	全火災	733	639	94	762	△29
	建物火災	439	416	23	458	△19
	住宅火災	285	269	16	296	△11
	林野火災	-	-	-	-	-
	車両火災	88	67	21	64	24
	船舶火災	2	-	2	2	-
	航空機火災	-	-	-	-	-
	その他の火災	204	156	48	239	△35
損害状況	焼損床面積(m ²)	9,227	4,721	4,506	6,757	2,470
	死者(人)	15	14	1	23	△8
	放火自殺者	1	2	△1	4	△3
	負傷者(人)	117	88	29	119	△2
	住宅火災	4,693	3,480	1,213	4,081	612
	死者(人)	15	12	3	20	△5
	放火自殺者	1	2	△1	2	△1
	負傷者(人)	83	73	10	90	△7

備考 住宅火災の件数は建物火災の内数、住宅火災の損害状況は全火災の損害状況の内数 また、放火自殺者数は死者数の内数
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

2 主な出火原因

単位：件

年別		令和5年	令和4年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成25年～令和4年) (C)	(A) - (C)
全火災	たばこ	126	104	22	109	17
	放火(疑いを含む)	116	93	23	195	△79
	こんろ	81 (6)	68 (4)	13 (2)	88 (8)	△7 (△2)
	電気機器	72 (72)	71 (71)	1 (1)	38 (38)	34 (34)
	配線器具	41 (41)	33 (33)	8 (8)	28 (28)	13 (13)
	上記以外の出火原因	297 (92)	270 (88)	27 (4)	305 (91)	△8 (1)
	計	733 (211)	639 (196)	94 (15)	762 (165)	△29 (46)
住宅火災	こんろ	58 (3)	56 (4)	2 (△1)	70 (7)	△12 (△4)
	たばこ	50	44	6	46	4
	電気機器	29 (29)	34 (34)	△5 (△5)	17 (17)	12 (12)
	配線器具	28 (28)	23 (23)	5 (5)	18 (18)	10 (10)
	放火(疑いを含む)	20	14	6	34	△14
	上記以外の出火原因	100 (34)	98 (40)	2 (△6)	111 (38)	△11 (△4)
	計	285 (94)	269 (101)	16 (△7)	296 (79)	△11 (15)

備考 ()内は電気起因する火災で各出火原因の内数

過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

3 行政区別火災発生状況

単位：件

年別		令和5年	令和4年	前年比	過去10年間の平均	増△減
区分		(A)	(B)	(A) - (B)	(平成25年～令和4年) (C)	(A) - (C)
行政区	鶴見区	54	52	2	71	△17
	神奈川区	43	41	2	48	△5
	西区	38	34	4	34	4
	中区	88	53	35	70	18
	南区	47	28	19	44	3
	港南区	26	38	△12	44	△18
	保土ヶ谷区	31	36	△5	37	△6
	旭区	46	40	6	47	△1
	磯子区	22	24	△2	29	△7
	金沢区	38	21	17	35	3
	港北区	75	61	14	66	9
	緑区	26	32	△6	33	△7
	青葉区	38	32	6	42	△4
	都筑区	34	28	6	38	△4
	戸塚区	49	63	△14	49	-
	栄区	18	20	△2	20	△2
	泉区	30	21	9	29	1
	瀬谷区	30	15	15	29	1
合計	733	639	94	762	△29	

備考 過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

救 急 概 況 < 速 報 >

単位：件

区 分\年 別	令和 5 年		令和 4 年		増△減	増減比
	件数	構成比	件数	構成比		
出場件数	254,636		244,086		10,550	4.3%
1日当たりの出場件数	698		669		29	
出場率（何分何秒に1回）	2分4秒に1回		2分9秒に1回		—	
市民の救急車利用状況	15人に1人が利用		15人に1人が利用		—	

※令和5年の人口については、令和5年12月1日推計値（政策局総務部統計情報課資料）による。

事故種別別出場件数

単位：件

事故種別	令和 5 年	構成比	令和 4 年	構成比	増△減	増減比
急 病	181,882	71.4%	174,178	71.4%	7,704	4.4%
一 般 負 傷	44,760	17.6%	42,786	17.5%	1,974	4.6%
転院搬送	11,130	4.4%	10,852	4.4%	278	2.6%
交通事故	9,136	3.6%	8,987	3.7%	149	1.7%
そ の 他	7,728	3.0%	7,283	3.0%	445	6.1%
合計	254,636	100.0%	244,086	100.0%	10,550	4.3%

※その他とは、加害や自損行為などを含む。

傷病程度別搬送人員

単位：人

傷病程度	令和 5 年	構成比	令和 4 年	構成比	増△減	増減比
軽 症	98,711	48.2%	92,873	48.3%	5,838	6.3%
中 等 症	89,134	43.5%	81,242	42.3%	7,892	9.7%
重 症 以 上	17,119	8.4%	18,057	9.4%	△ 938	△5.2%
そ の 他	5	0.0%	1	0.0%	4	400.0%
合計	204,969	100.0%	192,173	100.0%	12,796	6.7%

※その他とは、医療機関に搬送はしたが、受診拒否など傷病程度の示しが無いもの。

年代別搬送人員

単位：人

傷病者年代区分	令和 5 年	構成比	令和 4 年	構成比	増△減	増減比
新生児・乳幼児（0歳以上7歳未満）	15,868	7.7%	14,116	7.3%	1,752	12.4%
少年（7歳以上18歳未満）	8,002	3.9%	7,129	3.7%	873	12.2%
成人（18歳以上65歳未満）	65,961	32.2%	62,632	32.6%	3,329	5.3%
高齢者（65歳以上）	115,138	56.2%	108,296	56.4%	6,842	6.3%
合計	204,969	100.0%	192,173	100.0%	12,796	6.7%

行政区別救急出場件数

単位：件

行政区	令和 5 年	令和 4 年	増減比	行政区	令和 5 年	令和 4 年	増減比
鶴見	19,146	18,193	5.2%	港北	20,266	19,614	3.3%
神奈川	15,680	15,247	2.8%	緑	11,542	10,745	7.4%
西	10,749	10,039	7.1%	青葉	15,056	15,001	0.4%
中	18,761	17,591	6.7%	都筑	11,176	10,453	6.9%
南	15,877	15,269	4.0%	戸塚	18,554	17,855	3.9%
港南	15,465	14,484	6.8%	栄	8,019	7,698	4.2%
保土ヶ谷	13,804	13,354	3.4%	泉	9,991	10,042	△0.5%
旭	16,503	16,039	2.9%	瀬谷	8,619	8,378	2.9%
磯子	11,869	11,184	6.1%	市外	43	51	
金沢	13,516	12,849	5.2%				

※令和5年中の出場件数の内訳及び搬送人員の数値は、速報値であり、確定値ではありません。

※構成比率は少数第2位を四捨五入しているため、表中の合計が100.0%にならない場合があります。